

避難時の心得

避難するときは、市役所・町村役場から発表される避難指示に従って落ち着いて行動しましょう。

避難時の注意点

- ① 気象台が発表する警報・情報に注意しましょう。
- ② テレビやラジオ、メールサービスやアプリ、行政機関の広報などから、正しい情報入手しましょう。
- ③ 誤った情報に惑わされないように注意しましょう。

避難時の服装

- ① 避難の際には肌の露出を極力避けた服を着用しましょう。
- ② 動きやすい服装、靴にしましょう。

※靴なしの服・スカート・サンダルや、かかとの高い靴はやめましょう！



非常持ち出し品(例)

家族構成などに合わせて準備しましょう！

必要な物

- リュックサック
- 応急医薬品
- 衣料品
- 食料品・水
- 携帯ラジオ
- 貴重品
- 懐中電灯
- 健康保険証

あとと便利な物

- 携帯電話
- マスク
- マッチ・ライター
- ゴーグル
- ローソク
- ロープ
- 十徳ナイフ・缶切り
- タオル
- プラスチック製コップ
- ホイッスル
- ビニール袋(大小)

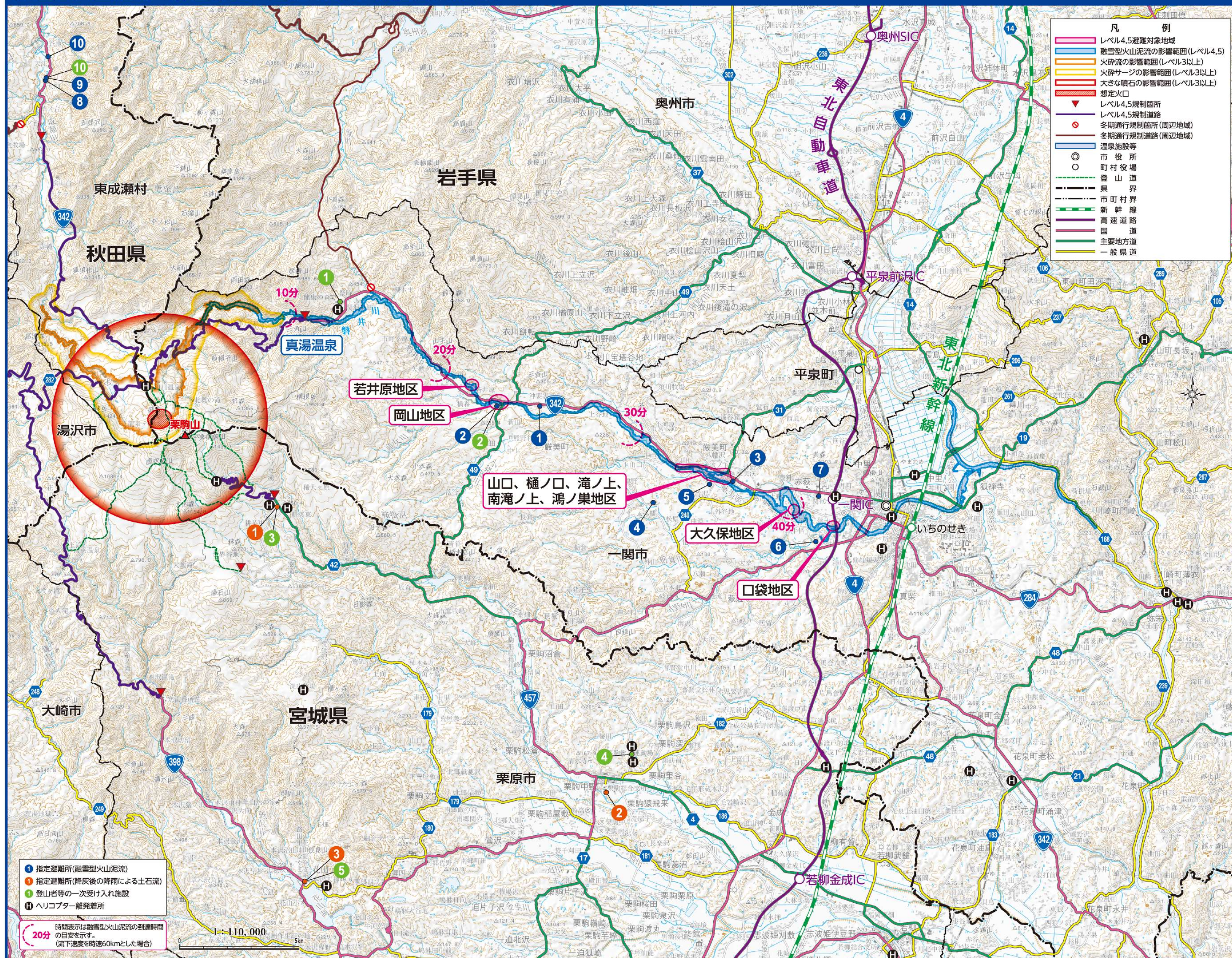
赤ちゃんがいる場合

- 母乳瓶
- ミルク
- 紙おむつ

お年寄りがいる場合

- 看護・介護用品
- 常備薬
- 紙おむつ

融雪型火山泥流の影響範囲と避難対象地域(磐井川流域)



栗駒山の噴火の種類等



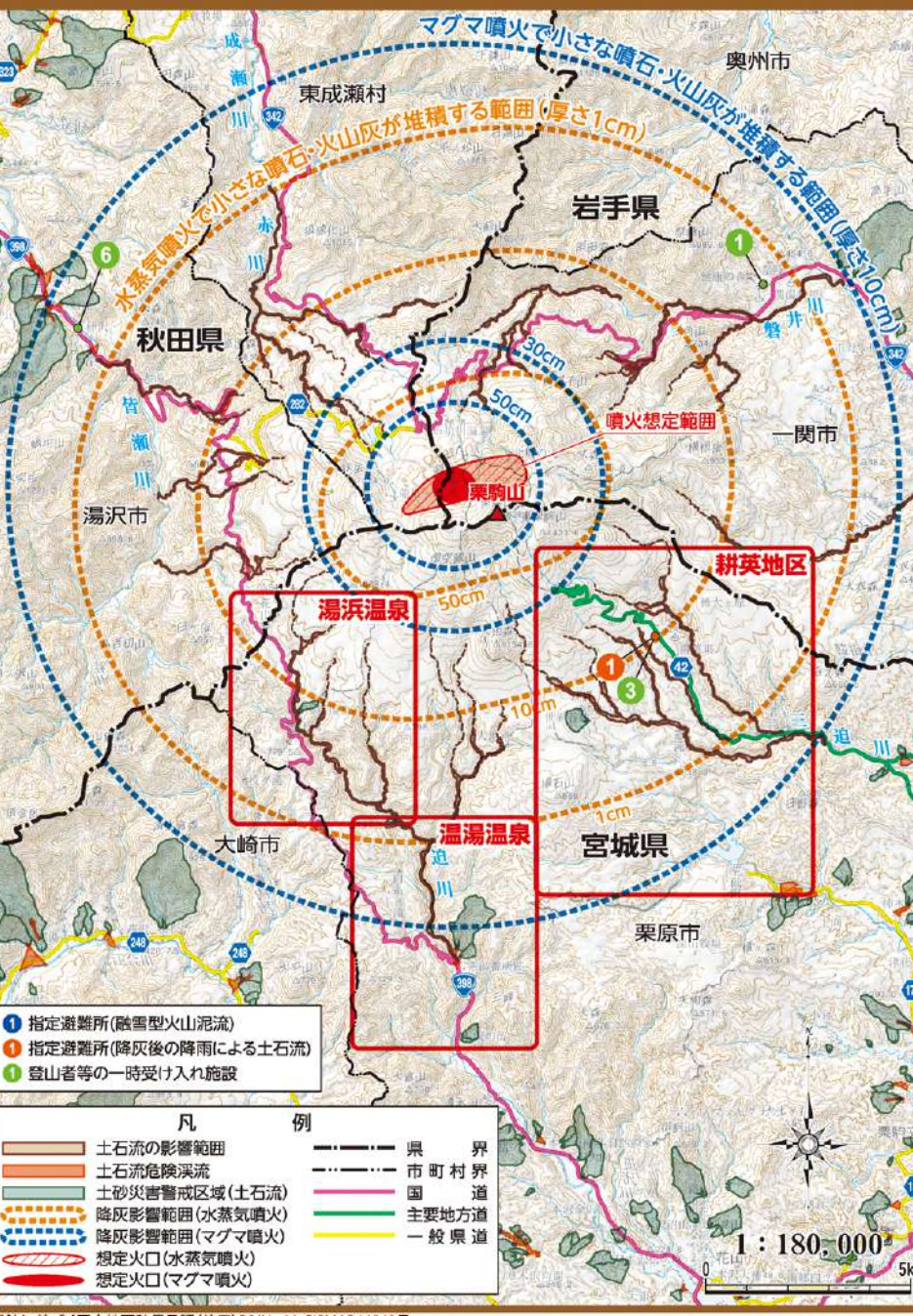
栗駒山の噴火警戒レベル

噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の段階に区分したものです。各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者などのべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています。(レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「火口周辺規制」に留意)。栗駒山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。噴火警戒レベルは必ずしも順をおって引き上げ(引き下)げられるとは限りません。

特別警報	警報	予報	名称	対象地域	レベル	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報(火口周辺)	居住地域近くまで火口から火口周辺	5	避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいは切迫している。 【過去事例】 有史以降事例なし	
			4	避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者への避難、住民の避難の準備等が必要。	●融雪型火山泥流が居住地域まで到達するような噴火が発生が予想される。 【過去事例】 有史以降事例なし	
警報	噴火警報(火口周辺)	火口から火口周辺	3	入山規制	居住地域の近くまで重大な被害を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口から居住地域近くまでの範囲への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難等が必要。特定地域の避難等が必要。住民は通常の生活。	●火口から概ね4km以内の大きな噴石の飛散する噴火の発生またはその可能性。火口から居住地域近くまで火砕流・火砕サージ・融雪型火山泥流が到達、またはその可能性。 【過去事例】 有史以降事例なし	
			2	火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。住民は通常の生活。	●火口から概ね800m以内の大きな噴石の飛散、火口周辺に火砕流・火砕サージが落下する噴火の発生またはその可能性。 【過去事例】 1744年の噴火、1944年の噴火	
予報	噴火予報	火口内等	1	噴火の警戒レベル	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●状況により火口内に影響する程度の噴出の可能性。	

※特定地域とは、居住地域よりも栗駒山の噴火口に近いところに位置する避難等が求められる地域を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要になる場合がある。(栗駒山噴火(イワカガミ平) ※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。 ※レベル3以上の火砕流・火砕サージの影響範囲は、到達距離の推移など火山活動の状況等によって変化する。栗駒山の噴火警戒レベルは今現在5月30日から運用を開始しています。レベル4のキーワード「高齢者等避難」は令和3年12月の変更では「避難」準則)となります。各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町の防災計画等で定められています。最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでご覧いただけます。 <https://www.jma.go.jp/jma/index.html> 気象庁

降灰後の土石流の影響範囲



降灰後の降雨による土石流の避難計画(栗原市:耕英地区)



降灰後の降雨による土石流の避難計画(栗原市:湯湯温泉)



降灰後の降雨による土石流の避難計画(栗原市:湯浜温泉)



噴火したときに発生する現象

1) 小さな噴石、火山灰(落下火砕物)

上空の風の向きにより影響範囲が大きく変わります。落下時には火口から遠方で降ります。比較的ゆっくりと落下する現象です。

2) 大きな噴石

噴火と同時に発生します。火口から数km程度まで飛散します。爆発的な噴火により火口から吹き飛ばされた岩石が火口から全方向に弾道を描いて飛散します。

3) 火口噴出型泥流

噴火と同時に発生します。火口から高圧の噴出物により影響範囲が広がります。

4) 火砕流・火砕サージ

噴火と同時に発生します。数百以上の高温に達することがあり、スピードの早い現象です。

5) 溶岩流・溶岩ドーム

火口から噴出した溶岩がゆっくりと山腹斜面を滑り降り、斜面に降りた溶岩が徐々に固まって溶岩ドームを形成します。

6) 融雪型火山泥流

雪が積もっているときに噴火すると発生します。高圧で遠方で落下することがあります。

7) 降灰後の降雨による土石流

降灰によって発生します。噴火後は数週間かけて降り積もった火山灰が、大雨による浸透圧の上昇により、谷地や沢に沿って落下する現象です。

【写真提供】
 (1) 北海道伊達市(北海道) [提供] アジア航空株式会社
 (2) 萩市(長門県、萩市) [提供] 萩市観光協会
 (3) 有珠山(北海道) [提供] 岩手県観光局
 (4) 三山山(岩手県) [提供] 宇津野建設
 (5) 山梨山(長門県) [提供] アジア航空株式会社
 (6) 島原山(佐賀県、山形県) [提供] 宇津野建設
 (7) 三宅山(東京都) [提供] 国立研究開発法人土壌研究所